

MOTTAINAI (もったいない)

学習の秋、学習の環境を考える

～視力検査～

私は、小学校時代、3年生と4年生の二度、転校しました。初めての転校で、直後に視力検査がありました。確か、0.3だったと思います。原因は、間違いなく、テレビの見過ぎ。(確信があります)担任の先生が、教室の座席を前の方にしてくれ、眼科にも通い視力も徐々に回復していました。二度目の転校で、一番後ろの席になり、先生にも言い出せず、家の状況も厳しくなっていたので、眼科にも通わず、ほとんど黒板の字も見えませんでした。もちろん、勉強は、4年生の後半、全く分からなくなりました。

今月、視力検査を実施しました。視力検査は、春と秋の2回実施しています。受診勧告をもらったお子さんは、眼科の受診をお勧めします。各担任の方でも、視力検査の結果について注意していますが、ご家庭でも(目を細めてみている)等、気になることがありましたら、「黒板見えてる?」と聞いてみてあげてください。また、座席などの配慮をいたしますので、ご相談ください。



ライバル出現！

先日の1年生の遠足での出来事。昼食場所の芝生の広場で、便所まで走ろうとする一年生に、芝生が気持ちよく、思わず「よーいドン!」と声をかけました。5分ぐらいの力で走っていると、どんどん置いていかれ、途中から8分9分の力で走って、ようやく追いつくことができました。

あと2年で還暦の私。ますます衰える私の走力と、日ごとにたくましくなる1年生。私の強力な“ライバル”です!(^_^)

これから、練習に励んで、2年生・3年生までは、ライバルでいたいと思っています。





学びの集中の法則？！

子どもたちが、学びに集中したとき、それが身体や表情、様々な表現に表れます。大阪府で働いていた時、毎週のように府内の各地の授業を見せてもらう機会に恵まれました。私は、いつも教室の前の端、いわゆる“S席”から授業を参観していました。そして、子どもが集中した時のいくつかの特徴に気づきました。

- ①多くの子どもたちの口が開く
- ②発表・発言の時、その地域の方言が出る

上の写真は、10月のお話し会（絵本の読み聞かせ・紙芝居）の時の写真です。多くの子どもたちが、絵本・紙芝居に集中し、お話しの世界に入っていました。ほとんどの子どもが、口をぽかんと開いています。

文科省から毎月発行されている本には、日本各地の授業・学びの子どもたちの様子が大きなアップで、カラー写真で紹介されています。そこに紹介されている子どもの多くも、口を開いていることが多いです。

ちなみに、私の小さい頃、夕食を食べずに口を開いて、テレビのマンガに集中し、「口開いてテレビ観ている！」と、よく注意されました。

これからの参観では、是非、子どもの表情・発言に注目して観てください。

BOOKS 思い出の本は



本、読書が好きかどうか？本を読むことに抵抗感がないというのは、たんに学力の問題にとどまらず、仕事や人生、生き方そのものを豊かにしてくれると思います。

私自身は、どちらかというと本は苦手でした。しかし、新聞を毎日読んでいた親の姿に、いつしかスポーツ欄やテレビ欄を見ることが習慣になり、文字を読むことの抵抗感は少なかったように思います。

そんな私が、少し読書の楽しさに触れたのが、確か5年生の時に読んだ伝記でした。自らの発明したダイナマイトで大成功を収め、多くの資産を手にしたものの、そのダイナマイトが、戦争に使われ、多くの人々の命と財産を失うことに悩んだノーベル。そこで、人類の役に立つ研究に対してノーベル賞を創設したノーベル。幼少期、炉端で大火傷を負い、不自由な手で勉学に励みアフリカに渡り、黄熱病の研究に大きな功績のあった野口英世。小さな大名の家に生まれ、永く人質として暮らし、その後天下を取った徳川家康、今も、鮮明に覚えています。

天美小学校の子どもたちも、「読書がすき」という子どもが増えているようです。ご家庭でも「お父さんが思い出に残っている本は…」「お母さんがよく読んだ本は…」等々、子どもたちにお話しただけたらと思います。

